

春の「湯ノ岳」登山



福島学習センター 福島登山サークル 斎藤 芳久(選科履修生)

桜の花の満開を迎えた4月12日、いわき市にある「湯ノ岳」に登ってきた。湯ノ岳は、標高593m「うつくしま100名山」でも紹介されており、今回は4名の参加者である。全員初めて登る山(?)で、登山口までの道順や登山道の状況などネットや本で紹介されているもののわくわくドキドキである。集合は7時30分学習センター駐車場、全員定刻に集合、都合で参加できない会員が見送りに来てくれた。「気を付けて行ってください」との励ましをもらい、それぞれの荷物を同乗する車に積み替え出発進行。東北道から磐越道そして

常磐道と車を進めた。目指すは丸山公園登山口、途中の車中からの景色は、萌黄色の木々の新芽と目を引く桜の風景を堪能しつつ、設定したナビに導かれ、迷うことなく9時頃公園に到着した。空は快晴、朝のひんやりとした空気がこちいい。身支度を整えつつ、登り口には「熊注意」の看板。そして登山案内の大きな看板。当初は山頂往復を考えていたが、看板をみるとやや道路歩きはあるものの別の「御山掛け登山口」に下りられそう?いざ出発。山道は、最初一旦下るも、すぐに急登が始まった。汗が噴き出す。着ていた上着を脱ぎ、いつしか話し声も少なくなっていた。また途中登山道が分かりにくいところもあったが10時30分観音堂跡着、行程は約3分の2を過ぎたところ。いったん道路に出てから、また導かれ登山道に入った。頂上もまもなくではと思うと力が入った。まもなく思うとなかなか頂上に着かない。急登を登り切ったところから、斜面もゆるくなり、ほどなく頂上に着いた。11時、山頂といっても三角点と道標、周りは樹林とアンテナ用の建物に囲まれ全く展望はない。それでもそれぞれ座る場所を探し、荷物を下ろすとほっとする。ほっとするとお腹がすいたのが感じられ、お昼となった。それぞれが持ってきた弁当やおにぎりを頬張る。食事をとると疲れた体も少し回復した感じがした。しばらく休み集合写真をパチリ。下山することにした。コースは、戻りではなく案内図でみた「御山掛け登山口」へのコース、このコースは展望がいい、少し下ると太平洋も望めた。周りの山々も望むことができた。いずれにしても登った分だけ下らなければならない。途中整備されたつづら折りの下りの斜面を何回折り返したのか。かつては、修験者の修行のための道といわれた意味が理解できる。それも終わるとようやく不動沢着12時46分まもなく舗装道路に出た。そこからは、道路をひたすら歩くのみ。途中休憩がてら小さな本屋に立ち寄り、店主こだわりの本を眺めるも更に丸山公園を目指して歩いた。ようやく着いた丸山公園15時11分、約2時間の道路歩きとなった。

公園散策の余裕もなく、湯本温泉公衆浴場「さはこの湯」を目指して車を走らせた。入り口はいかにも江戸時代で歌舞伎座を思わせるような建築で風情がある。やや熱かったがさっぱり。学習センターを目指し帰路についた。学習センター駐車場着18時。

今回の登山で、道路歩きは大変であったが、多くの景色を堪能できたことは経験として満足している。



令和8年度 前期 公開講演会

郡山

日時：令和8年8月22日(土)

13:00～14:30 (12:30 開場)

会場：放送大学福島学習センター講義室
郡山市桑野1丁目22番21号

講師：何 燕生 先生（放送大学客員教授・郡山女子大学短期大学部教授）

講演内容：「死生観の最前線」



本講演では、現代日本における死生観の変化を宗教学の視点から考察します。とりわけ東日本大震災における震災死の経験は、人びとの死の理解や弔いのあり方に大きな問いを投げかけました。近年、葬儀の簡素化や家族葬の普及、さらに自然葬志向の広がりなど、死をめぐる実践は大きく変容しています。

こうした社会的変化を踏まえ、現代人がどのように死と向き合い、新たな死生観を形成しつつあるのかを宗教文化史的観点から検討し、死をめぐる思想の現在地を明らかにします。

定員：先着35名（要予約）

料金：入場無料

オープンキャンパスも同時開催 12:30～13:00

（内容）放送大学内容説明・施設見学など

申込方法

公開講演会・オープンキャンパスともに、直接電話にて福島学習センターにお申し込みください。

電話番号

024-921-7471

いわき

日時：令和8年8月29日(土)

13:00～14:30 (12:30 開場)

会場：いわき市社会福祉センター4階
いわき市平字菱川町1番地の3

講師：石川 友保 先生（放送大学客員教授・福島大学共生システム理工学類教授）

講演内容：「水素エネルギーの最新動向と
サプライチェーン」



近年、次世代エネルギーとして「水素エネルギー」が注目されています。福島県でも、福島水素エネルギー研究フィールドの開所や、福島大学水素エネルギー総合研究所の設置など、様々な取組が行われています。このように注目されている水素エネルギーですが、その普及にはサプライチェーンの構築や安全性などの課題があります。

本講演では、水素エネルギーの基礎知識や最新動向、水素エネルギーのサプライチェーンなどを紹介します。

定員：先着35名（要予約）

料金：入場無料

申込方法

いわきサテライトセンターに直接電話にてお申し込みください。

電話番号

0246-22-7318

重要!

お知らせ



2026年度から「単位認定試験通知(受験票)」の郵送が廃止されます!

2026年度より、単位認定試験の受験資格は原則、システム WAKABA からご確認いただくこととなります。ただし、単位認定試験を学習センター等で受験される方については、引き続き単位認定試験通知(受験票)が郵送されます。

(必ずご確認ください!) 2026年度からの単位認定試験通知(受験票)の扱い

単位認定試験受験場所	単位認定試験通知(受験票)の扱い	確認内容
全て自宅受験	受験票は郵送されません。	→下記①を確認ください。
記述・併用のみ 学習センター受験	(記述・併用科目を受験しない場合) 受験票は郵送されません。	→下記①を確認ください。
	(記述・併用科目を受験する場合) 受験票は郵送されます。	→下記②を確認ください。
全て学習センター受験	受験票は郵送されます。	→下記②を確認ください。

①受験可能な科目は WAKABA「教務情報→単位認定試験時間割照会(学生用)」から確認ください。

②「単位認定試験通知(受験票)」は郵送されます。(WAKABA でも確認可能)

次学期に向けての手続き

- 次学期も学籍が続く方は、**8月15日(土)～8月30日(日)**〈本部大学必着〉の期間内に科目登録申請票を郵送してください。(WAKABA申請可)
- 今学期で学籍が切れる方で次学期も学習を継続される方・再試験を受ける方は、**8月31日(月)(第1回)・9月9日(水)(第2回)**〈大学本部必着〉まで継続入学出願票、または一般の学生募集要項(ネット出願可)を郵送してください。

※詳しいことは、学生生活の葉で必ず確認をしてください。

学習センター閉所日について

福島学習センター及びいわきサテライトスペースの閉所日

- 令和8年4月より、「閉所日 週2日制」を実施しております。
- 7～9月は、基本的には、面接授業がないので、毎週日・月曜日が休みとなります。
- その他、祝日・8月9日(日)～17日(月)が休みとなります。

※10月以降の臨時閉所日については、次号以降お知らせします。

図書・視聴学習室 からのお知らせ

- 単位認定試験の実施に伴い、**7月1日(水)～7月22日(水)**まで、図書の館外貸出を停止します。(夏季集中科目生は通常通りの館外貸出が可能です)